

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくあげている		地域交流の場においても、その人らしく暮せるようケアを行なっていく
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2.地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	現時点では、ほとんど地域に貢献できていない。		今後、少しでも地域の方のお役にたてるような取り組みができればと思っている。
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	各職員が行ってきたケアを見直し、改善すべき点を生かしていけるよう職員同士が連携し、具体的に見直す機会として、取り組んでいる。		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	2ヶ月に一度の割合で開催し運営報告の後、質疑応答を行いサービス向上に生かしている		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市町村主催の各種研修会には積極的に参加している。又平成20年1月から、市役所派遣の介護相談員さんにきてもらい、客観的な意見をきいている。		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	権利擁護事業や成年後見制度について、勉強会は実施しているが、理解するには、まだ不十分である。		勉強会の機会をふやし、理解していき、この制度が必要な方に活用できるように支援していきたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	高齢者虐待防止法については、勉強会にてとっぴり職員の認識を深め、十分に注意を払っている。見過ごす事のないように気をつけている。		今後とも継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、管理者、担当者が本人家族に十分説明し、理解、納得、同意をはかり、その後も随時、相談に応じている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の生活の中で、利用者、家族、意見、不満、苦情がでた場合、伺い反映できるように努めている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族が来られたときに、預かり金の残高及び出納帳の確認をしていただきサインを頂いている。毎月一度、近況報告のお手紙又は、写真を送っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関にメッセージボックスを設置しているがあまり活用されていない家族が来られた時に意見をきき、すぐに反映できるように日ごろのコミュニケーションの機会を大切にしている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回のスタッフミーティング、毎朝の朝礼時に意見、提案を聞く機会を設け、その意見を反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況に応じて、勤務時間を変更したり等、柔軟な対応をとっている。又、その時間帯についての話し合いはしている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>出来る限り職員の異動、離職をしなくて済むよう話し合いなどの機会をつくっている。やむなく代わる場合は十分に申し送りを行い利用者に影響がないように配慮している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>常に人権の尊重や、公平性を意識して採用にあたっている。又、個人の特性をケアに生かせるようスタッフ間の関係性を考慮している。職員がただ働くだけでなく、社会参加や、自己実現を図れるような場の提供をしている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>新人研修、セミナー等を広報し、参加希望を募っている。又、スタッフが参加できる環境を作っている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人研修や法人外の研修など、随時状況に応じた研修を受ける機会を設けている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会を通して同業者との交流を持ったりして、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>食事会、ボーリング大会などの親睦会を行い、コミュニケーションの場を作っている。何かの不満が表出した場合、その都度運営者側との話し合いの時間を設けて意見を出してもらっている。</p>		
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	<p>自己評価表(ホームで取り入れている)を記入してもらい、自己の得意不得意を再認識してもらっている。又、勉強会などで専門職からの指導を受ける場を設けている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	傾聴につとめ、受容する姿勢をとっている	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入所相談時に十分話を聞いて、受けとめる努力をしている	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	利用者本人と家族のニーズに応じ、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	利用者本人の負担が最小限になるよう努めながら、徐々に慣れてもらえるよう工夫している	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	入居者ひとひとの感情を大切に、共に笑い、共に涙し、敬う心を忘れず接している。時には1対1でゆっくり過ごす時間を設け、じっくり話を聞いたりして、入居者の皆様から学ばせてもらっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の家族に対する思い、家族の入居者に対する思いを同じように考え対応させていただいている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	家族の認知症への理解 本人の置かれている現状の理解を深めて頂けるよう努めている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう 支援に努めている	馴染みの人 物に対し、積極的に取り入れている。又馴染みの場所への外出は家族にお願いして出来る限りできるようにしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるよう努めている	入居者同士の関係を認識したうえで、スタッフが見守り 出きる範囲を見極めるよう支援している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	亡くなられた方には、葬儀 通夜に参列し、入居者の思い出を語り合ったり 利用者家族との関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人との会話の中に、思い・希望が含まれている言葉のはしはしから本人の思いを感じ、共感をもつ、もし困難な場合も勝手に判断したりしないよう心がけている。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>御家族御本人から生活歴・人生歴を伺いこれまで生きてこられた生活環境に近い環境をつくりだすよう努めている。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々の記録をもとに、スタッフ間で情報交換を行い、把握に努めている。個々の能力が発揮できるような場面づくりに努めている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族の意見を参考にしながら、介護計画を立てている。サービス担当者会議、ケース検討会等で、意見・アイデアを収集し、本人優先の介護計画に取り組んでいる。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的に3ヶ月に1回、見直し計画を行なっている。緊急性がある場合、期間にこだわらずご本人に必要な介護計画を行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践 結果、気づきや工夫を個別記録に記入し 情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有をしながら、日々の様子や言動等から、介護計画に生かせるよう 努めている。		ケアプランの見直しに反映できるように更に努めていきたい。
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在、通いやショートステイ等のサービスの利用は行っていない。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	グループホームの行事への地域ボランティアの参加、運営推進会議を通じて、認知症を理解頂けるよう活動を行っている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は、ほとんど行っていない		今後、必要と思われるケースがでた場合、運営推進会議などを利用して、地域包括支援センターのケアマネージャーに相談したい
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	研修会参加や、必要時、情報交換はしているが、今までは、権利擁護や成年後見制度等の利用はない。		今後、必要になった場合、地域包括支援センターと協働して行きたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望された「かかりつけ医」を最優先している。家族の意向や状況に応じて受診や往診などの支援を行っている。週に一度往診にみえる提携医の医師と密に連携をはかり、ホームは家族との橋渡し役を行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	特に認知症の専門医ではないが、提携医と相談し、必要であれば、専門医を紹介していただくようお願いしている。		
47 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師資格を有する職員がおり、入居者の健康管理に努めている。利用者の主治医と密に連携をとりながら、健康管理に努めている。		
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先病院と連携をとり、少しでも本人が混乱されないよう、情報提供を行っている。スタッフもできる限り、本人の所へ伺い、不安が少しでも回復するよう努めている。		
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時と、医師が判断した段階などに本人・家族の意思・意向を確認し、説明している。繰り返し話し合いの場を家族、医師、ホームでもつよ配慮している。看取りに関しては、全員で方針を共有している。		
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医と看護師と連携をはかり、本人の状態の変化に応じて、その都度、家族をまじえて、話し合いをし、必要に応じて病院入院も考慮にいたうえで、本人と家族の望む支援をしている。		
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅から来られる場合、入院されている病院から来られる場合でも、馴染みの物品を居室へ持ち込み、環境の変化を最小限におさえられるよう努める。他グループホームへ移られる場合、情報提供を行い、本人を継続してサポートしてもらえるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>相手を敬う気持ちを大切に声かけを心がけている。又、プライバシーを守るよう情報は注意して取り扱っている</p>	<p>常に利用者中心のケアに取り組んでいきたい。</p>
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>利用者の判断能力にあわせた声かけを行い、何をしたいか、何が食べたいか、スタッフが一方的に提供するのではなく、ご自分で決めたり選択ができるような声かけの仕方を心がけている。</p>	<p>ひとりひとりの思いを最大限尊重できるケアが出来るよう常に心がけるようにしたい。</p>
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>なるべく御本人の希望されることを優先した過ごし方に心がけてはいるが、業務が優先されている場合もある。</p>	<p>常に利用者主体を忘れないよう取り組んでいきたい</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>御本人の力を把握し、好みの服を選んでいただけるよう支援したり、理容・美容については、業者より来ていただいて、御本人の好みを聞いてカットしていただいている。</p>	
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>日常的に御本人の好みや力に合わせてできる事をスタッフと一緒にやっていただくようにしている。</p>	<p>出来ない方もかなりあるので、少しでも参加していただけるよう支援していきたい。</p>
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ひとりひとりの嗜好をたずねたりきっかけ作りを行って、御本人に合ったものを楽しめるよう支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中は、その人の排泄パターンに応じて、トイレ誘導し、トイレで気持ちよく排泄できるように支援している		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴剤を使ったりして、入浴を楽しんでもらえる様工夫しているが、曜日や時間帯は、ほとんど事業所側で決めさせてもらっている		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠の時間帯が異なることを充分理解したうえで、ケアにあたっている。夜、		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	御本人の能力に応じた力を発揮できるよう、入居者一人ひとりにあわせた場を提供できるよう支援している。		本人のやりたいことが発揮できるような場面作りや支援を行なう
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が自分で支払うことができる方は、自分で金銭管理をしていただき、出来ない方は預かっている。		所持できない方が買い物される場合、支払う際に、お金を渡し、買い物したという実感が味わえるよう支援して行きたい。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりに付き添っていくこともしている。また、2~3人の方と戸外へ出て外気浴、散歩を兼ねて買い物ができるよう支援している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	本人の希望の買物ができるように支援している。行ってみたい所へ、出かける機会を作るよう支援したいが、まだまだ出来ないところがある。		本人の希望にそって外出をこれからも支援したい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたり 手紙のやりとりをされている方はいる。		現在、されていない方にも提案し、支援していきたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に、面会時間は設けていないが、家族・知人がいつでも来られるよう 気軽にきていただけるような雰囲気づくりを心がけている		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員も身体拘束のないケアを理解して取り組んでいる。		職員が正しく理解する為に、勉強会等での取り組みをさらにしていきたい。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており 鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかける事はほとんどない。出たい方がいたら、様子をそっと見守り外出に付き添い支援をしている		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通して、利用者の所在を把握し、常に、目配り 気配りに心がけている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の管理能力のある方に関しては、ハサミ等も管理していただいているが、入居者の状態に応じて、危険を防ぐ取り組みはしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の状態に合わせた取り組みをしている。スタッフ会議で、予想される事故について予防策を話し合っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修に参加したり 職員勉強会等で職員の意識づけをしている。		初期対応に関して、もっと職員の意識づけを強化していきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域や消防署の協力を得て防災訓練を行っている。		もっと地域とのかかわりをもっていきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に、リスクについては話しているが、身体機能低下によるリスクもあるので、随時、家族には報告している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居時に、リスクについては話しているが、身体機能低下によるリスクもあるので、随時、家族には報告している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとひとりの病名と服薬管理は、しているものの、副作用についての理解は、全員が理解しているとはいえない。誤薬がないよう服薬の変更に関しては、申し送り等で、対応している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	飲食物の工夫はしているが、まだ、足りないところもあると思う		運動に関して、もっと工夫の必要性があると思うので、もっと取り組んでいけるよう努める。
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	本人の習慣性もあるが、起床時、就寝時には、口腔ケアの支援、介助を行っている。又、週1回、訪問歯科による、管理指導を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え、摂取量の確認、自力摂取に支障がある方に、関しては、状態に合わせた介助を行い、水分も出来る限りとっていただけるよう工夫している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防グッズを常に準備しており手洗い、うがいは常時支援している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材に関しては、食中毒予防の為の衛生管理を行っている。フキン、食器を夜間は塩素消毒している		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家庭的な雰囲気が出るよう玄関周りには、花をたやすことがないよう心がけている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周辺が公園なので、不快な音はしない。静かな空間で季節の飾りをして、さりげなく季節感をだす環境整備を心がけている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が自分の居場所を見つけ、ゆっくりくつろげる空間作りを工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、本人の馴染みの物、使い慣れたものを持ってきていただいて居心地よく、過ごせるよう工夫している。		
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気には、気をつけている。冷やしすぎず、暖めすぎず、温度調節も配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにはなっている。安全、かつ出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫はしているが、さらなる工夫が必要かと思われる。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入口に、写真や、名札をはり、混乱を防ぐよう工夫している。トイレ、浴室には、張り紙をはったり、矢印をして、わかりやすく工夫している。		
89	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように活かしている	玄関まわりには、花を植えたり、野菜をつくったりして、外気浴時、散歩時ながめ、楽しめるようにしている。		

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に つけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に 1 回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に つけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

近所で、提携医であるつむら診療所の医師と看護師とスタッフとの連携のもと、開設以来5名の方を最後まで看取りました。その都度、知識を増やしていき、技術も磨いてスタッフと共に、ホームが成長しているところです。日々の生活の中では、特にスケジュールを決めずに、その日の天気や、ご利用者様の要望などに沿い、穏やかに過ごしていただいています。食事の献立も家庭的な味付けを心掛けるべく、野菜中心とし、御利用者様に喜んで食べてもらいたいとの一心でまごころこめて提供しています。おやつもできるだけ手作りしています。外出の支援も出来るだけ取り入れ、散歩を兼ねて、また、ドライブを兼ねて個別に支援しています。